

#### OA アシスト機能への質問と回答：

Q. OA アシスト機能では図書館リポジトリ担当者が、多量の論文をさばく必要があるかと考えます。そのわりに、一論文あたりの確認事項や、クリック数がかなり多いように見えます。一括操作、自動化につながる機能はございますでしょうか。

A. 一括操作に対応しております。ISSNなどで検索したうえで、一括ポリシー調査、一括登録、一括ステータス更新するといった操作が可能です。

(河合)

Q. 本学では、複数キャンパスにリポジトリ担当者がおり、それぞれ個別に登録作業を行っています。OA アシスト機能は、同時に複数のユーザーがログインしてそれぞれ作業を行うことは可能でしょうか。また、自分の担当する論文のみを表示させる、フィルタのような機能はありますか。

A. 複数のユーザーがログインすることは可能です。メモに担当者の氏名などを書き込んでいただき、それで検索することで、担当者のアイテムのみが表示されます。

(河合)

Q. 登録対象となる助成論文の母集団をどのように定義すべきでしょうか。OA アシストを含む文献データベースにもとづいて定義すべきなのか、または、KAKENのような報告書データベースにもとづいて定義すべきなのでしょうか。

A. 報告書データベースにもとづいて登録をおこなう場合、出版直後の登録はできず、即時性は失われてしまうので、義務化ポリシーを履行したことにはならない可能性があります。ですので、悉皆性に問題があるものの、OA アシストを含む文献DBにもとづいて登録をおこなうのがよいかと思えます。

(河合)

#### ダッシュボード機能への質問と回答：

Q. CiNii Research 内には、同じ論文であっても、複数のデータベースから登録されているために、微妙に内容が異なっているケースがあるかと思えます。それらは、どのように処理されているのでしょうか。別々の論文としてカウントされているのでしょうか。

A. ご指摘のとおり、CiNii Research は国内外の多様なデータベースを収録しているため、同じ論文が複数のデータベースから取り込まれることがあります。CiNii Research では、このような重複を避けるため、識別子やメタデータを参照し、可能な限り同一論文のレコードを統合しています。

CiNii Research 機関向けダッシュボードでのカウントは、この CiNii Research 本体での統合処理に依存しています。CiNii Research 機関向けダッシュボード側で追加の統合処理を

行うことはありません。

したがって、CiNii Research で論文の統合に成功していれば、CiNii Research 機関向けダッシュボードでもその論文は 1 件としてカウントされます。しかし、何らかの理由で統合がうまくいかなかった場合は、CiNii Research 機関向けダッシュボードでも複数件としてカウントされることになります。

(西岡)

Q. 科研成果報告書([https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken\\_g\\_318/r4seikabesshi2.pdf](https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken_g_318/r4seikabesshi2.pdf))にある「査読の有無」を CiR ダッシュボード(=CiNii Research)に取り込めるなら、さらによい機能が提供できるのではないのでしょうか。

A. ご提案いただきありがとうございます。

「査読」には、数名の専門家による厳格なものから、概要や要旨のみを対象とする簡易的なものまで、実に多様な形式が存在します。そのため、「査読済みである」という画一的な基準は存在せず、その解釈は分野やコミュニティの慣習に大きく依存しています。

特に科研費報告書においては、「査読の有無」の判断は著者に委ねられており、その判断にはばらつきが存在します。そのため、科研費報告書の「査読の有無」は統一された基準で付与されたメタデータとはいえません。

以上の理由から、CiNii Research および CiNii Research 機関向けダッシュボードでは、科研費報告書の「査読の有無」の使用を控えております。

(西岡)

Q. 即時 OA 方針では、「オープンアクセス論文／学術雑誌への掲載論文数」を把握することが求められていますが、具体的な方法については提示されていないと思います。把握方法として、この機能を使うことを想定されているのでしょうか。

A. ご指摘のとおり、具体的な把握方法については明示されておらず、現時点で把握方法は各研究機関の判断に委ねられているかと存じます。CiNii Research 機関向けダッシュボードが把握方法として今後ご利用いただけるよう、改善を重ねていく所存です。

(西岡)

OA アシスト機能とダッシュボード機能への質問と回答：

Q. OA アシスト機能と CiR ダッシュボード機能の関係についてお伺いします。機関内の非 OA 論文を探す場合、まず OA アシスト機能で抽出し、それに漏れたものを CiNii Research ダッシュボードをつかって探す、というような運用を想定されていますか？ダッシュボードでは個別のアイテムまでは検索できないのでしょうか？

A. OA アシスト機能と CiNii Research 機関向けダッシュボードの関係についてですが、OA アシスト機能で論文を OA にした結果は、ダッシュボードの指標に反映されることを想定

しています。さらに、ダッシュボードでは、グリーン OA だけでなく、ゴールド OA やハイブリッド OA といった他の OA 方法も含め、機関全体の OA 化状況を包括的に把握できるよう支援することを目指しています。

現在のところ、OA アシスト機能でカバーしきれなかった論文をダッシュボード上で特定する機能は想定しておらず、CiNii Research 機関向けダッシュボードでは、「OA になっていない論文」といった条件で論文を絞り込むことはできません。この点については、今後の検討課題とさせていただきます。

(河合・西岡)

河合将志氏・西岡千文氏・林正治氏への質問と回答：

Q. 河合先生、西岡先生、林先生に質問です。即時 OA の報告資料等を作成する上で、OA 論文登録の際に入力しておくべきメタデータ項目はなんのでしょうか。日本語論文を登録する際、英語のメタデータを登録する必要があるのかも含めてご教示いただけますと幸いです。

A. 即時 OA 方針の対象となる論文であるかという点を明確にするという観点から、助成情報を正確に入力することを強く推奨します。これにより、研究資金の出所が明確になり、即時 OA 方針への適合性を判断できます。

英語のメタデータについては、論文の国際的な発見可能性を高めるという観点から、入力を推奨します。日本語論文であっても、英語のタイトル、アブストラクト、キーワードを付与することで、海外の研究者にも論文が認識されやすくなり、結果として引用機会の増加にもつながります。

CiNii Research 機関向けダッシュボードを報告資料作成などでご活用いただくことを想定されている場合には、著者の所属情報（例：〇〇大学）をご入力ください。

CiNii Research 機関向けダッシュボードでは、この著者所属情報を基に各研究機関の成果を特定しています。そのため、各研究機関の論文がダッシュボードで正確に表示され、適切にカウントされるためには、著者の所属情報は極めて重要な項目となります。

(河合・西岡)

A. 私も河合さん、西岡さんと同じく助成情報や著者の所属情報は重要と考えます。加えて、人の識別子、組織の識別子、論文の識別子等、判明している識別子もできるだけ入力することも推奨します。文字情報ではどうしてもゆれが生じることがあります。入力後のシステム連携を考えるのであれば、識別子が付与されていることが望ましいです。

英語のメタデータについては、私は不要と考えています。翻訳技術や検索技術が高度化しているため、どうしても必要であれば機械翻訳で十分と考えています。英語化に労力をかけるのであれば、関連識別子の入力に力をいれるべきと考えます。

(林)